

中海と生きる。

島田地区中海流出水対策協議会

発行：令和4年3月

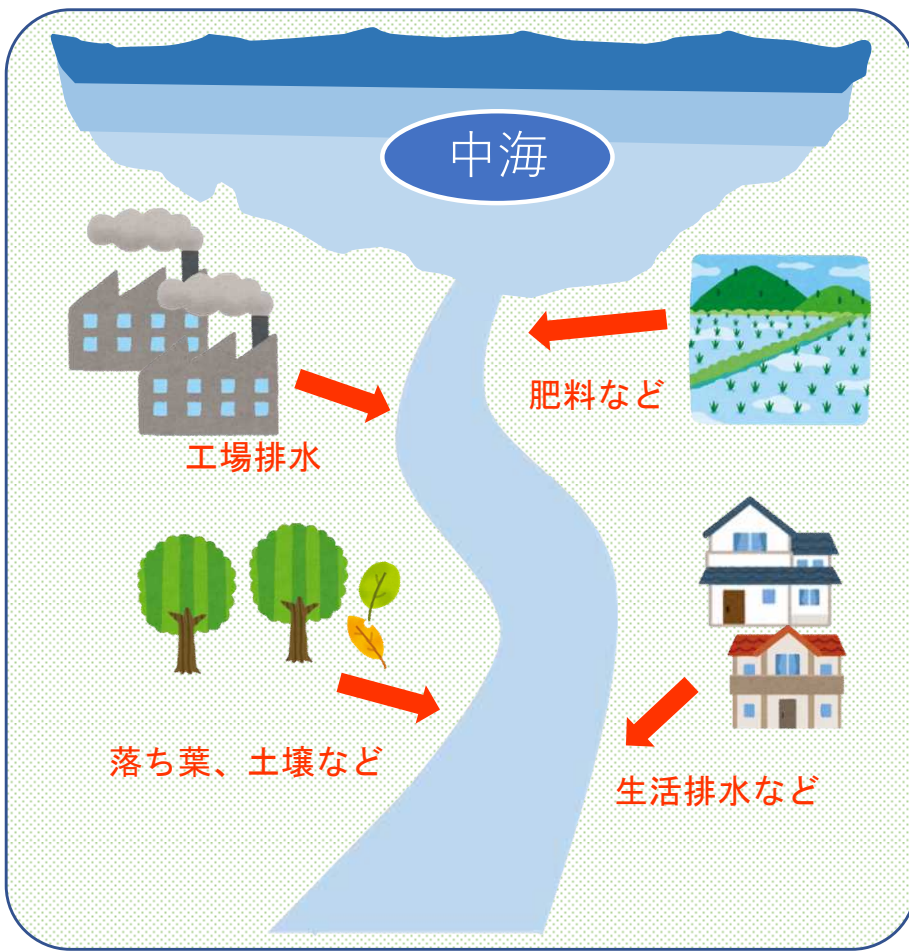


島根・鳥取両県は、平成22年に中海の水質保全対策を推進するため、「湖沼水質保全計画」を策定しました。この計画の中で、特に閉鎖性が強く、水質汚濁が起こりやすい米子湾流域は、流出水対策地区に指定されています。

「島田地区中海流出水対策協議会」（以下 流対協）は、この地区における中海へ流入する汚濁負荷の低減を図るための組織として設立されました。流対協では、イベントへの出店や環境学習などのさまざまな取り組みを行なっています。

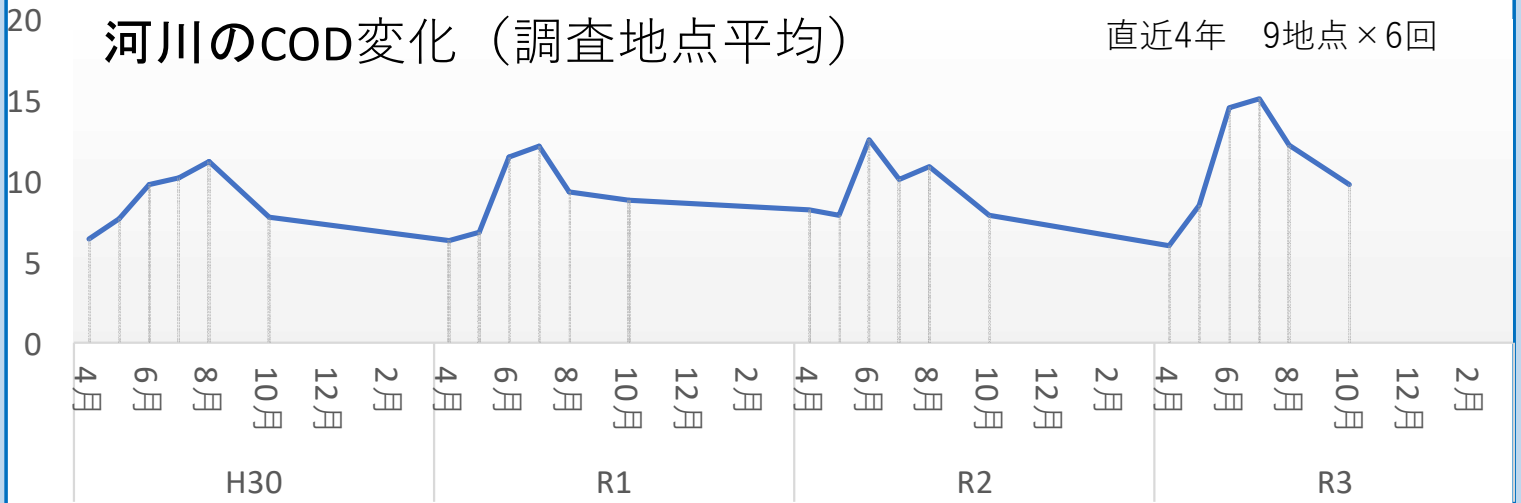
中海流入河川について

川などを通じて、湖や海へ流入する汚れた水のことを**流出水**といいます。
 流対協は中海へ流れ込む汚濁負荷の低減を図るため活動しています。活動の一環として、毎年島田地区の河川の水質調査を実施し、結果を啓発などに活用しています。

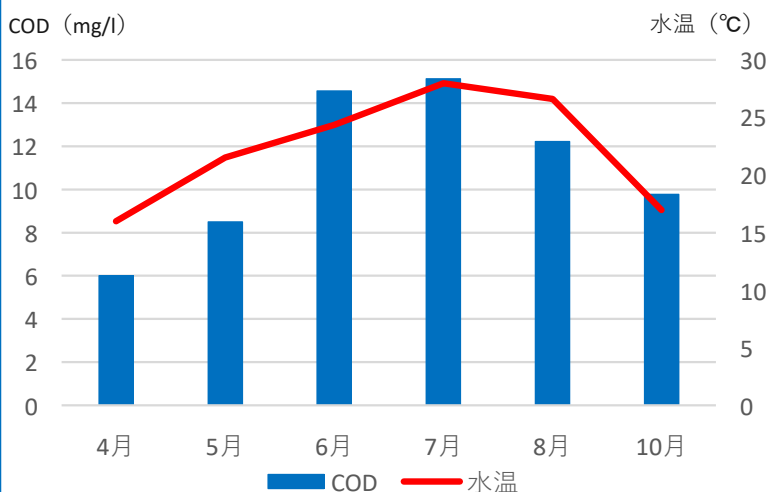


河川のCOD変化（調査地点平均）

直近4年 9地点×6回



R 3 水質調査結果（平均値）



CODが高くなる要因はたくさんありますが、その一つである水温が上昇するとCODも高くなることが分かります。

COD（化学的酸素要求量）とは水の状態を表す指標の1つ。水中に含まれている汚れの度合いを表すのが『COD』です。CODの値が高いほど水が汚れているとされています。

活動の様子

中海クリーンアップ

中海干拓安来工区で中海クリーンアップしましたが開催されました。



→
拾ったゴミの中には
布団まで...

総勢100名以上で中海沿岸のゴミ拾いなどの清掃活動を行いました



水辺の教室

(公財)しまね農業振興公社の板倉宏文氏を講師に招き、わんぱくクラブの児童と学習を行いました。

身近な飲み物や調味料でどれだけ水が汚れるかを実験しました



どれどれ...

↑
五感による環境チェック
大人も興味津々



環境授業

島田小学校の児童に使ってもらっている海藻肥料と、その他の肥料の違いなど、流対協の岩崎会長が授業を行いました。



生徒の質問に答える岩崎会長



中海や川を守るために 自分たちができること

私たちは主に河川の水を水道水として利用しています。そして、私たちが使った水はさらに川や海など水にすむ生き物が利用します。川や海が汚れると、魚などの生き物はすみづらくなり、私たちがもっと水の汚れ具合に関心を持つ必要があるのです。河川や海を汚している主な原因は生活排水です。工場などの排水が主な原因と思われるがちですが、海に流れ込む汚れを見てみると全体の約70%が私たちの毎日の暮らしに伴う生活排水から発生しているのです。1人が1日に使う水の量は250ℓにのぼります。川や海などの水を汚さないために私たちが努めるべきことは、生活排水などをできるだけきれいに流すことです。では、そのために具体的に何をすればよいのでしょうか。次でご紹介します。

家庭編

食べ残し・飲み残しをしないように心がけましょう。捨てるときは直接排水溝に流さないようにしましょう。



シャンプーやリンス、洗剤などは、適量を守って使いましょう。

適量以上に使うと洗剤などが無駄になる上に川を汚してしまいます。

河川やその周辺を清掃することで、ゴミ・泥などの河川への流入を防ぐことができます。



農業編

畦の補修等による漏水防止

漏水の大半は畦際なので、畦塗りや畦シートの設置により漏水を防止しましょう。

浅水代かきによる落水量低減

代かき前の入水量は、田面に「土が8割」「水が2割」見える状態を目安に行いましょう。

田植え前の落水量の低減

田植え前のほ場の水は濁り、肥料成分を多く含んでいます。ほ場の減水量を勘案しながら、自然減水で田植えに臨めるよう水の入れすぎに注意しましょう。

